

マルコの福音書 9:30-50 キリストに従う者の謙虚さ

今日はマルコの福音書 9 章の最後の部分である 30-50 節を見ていきます。一見すると、ばらばらの出来事や教えが述べられているように見えます。ですが、人間の筆者を通してこのみ言葉を語られた聖霊の靈感のもと、私たちが読むものに偶然はないことを忘れないでください。そしてここには、この章全体の始まりとなった出来事である変容にまでさかのぼる明確なつながりがあるように思われます。ペテロ、ヤコブ、ヨハネは変容の中に神の栄光を垣間見ました。そして神の栄光を味わったことによって、人生の中心が全て変えられるべきで、実際に変わって行きました。けれど、キリストが世を去られるまでにキリストに従うこれらの弟子たちの人生にはまだまだ大きな伸びしろがありました。今日、私たちもまた成長を必要としています。ですが、現代のキリスト者として、神の栄光を求めるべきであるにもかかわらず、往々にして最初の使徒たちのように、自己中心で高慢な私たちは、神よりも自分自身、また自分の功績を誇ります。ですから、弟子たちと同じように、私たちもまたキリストに従う者として謙遜である必要を突き付けられます。

まずはマルコの福音書 9:30 から見てみましょう。「さて、一行はそこを去り、ガリラヤを通って行った。」これまで、イエスの生涯と宣教のほとんどはガリラヤ地方にありました。地図を見ると、ガリラヤ湖の近くの地域であることが分かります。私たちが読んだマルコの福音書に記されている出来事は、数節後に言及されているカペナウムを含め、エルサレムから離れた、主に北の地域で起こりました。ですが、この後、復活の時までガリラヤという地名は出てくることはありません。ペテロがイエスをキリストであると宣言し、変容が起こったあと、マルコの福音書のすべてはエルサレムと十字架の死に向かっていきます。では、彼らが旅を続けながらどのような議論がされていたのかを読みましょう。「さて、一行はそこを去り、ガリラヤを通って行った。イエスは、人に知られたいと思われた。31 それは、イエスが弟子たちに教えて「人の子は人々の手に引き渡され、殺される。しかし、殺されて三日後によみがえる」と言っておられたからである。32 しかし、弟子たちにはこのことばが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れていた。」イエスはこの旅のこの時間を使って、弟子たちに再びご自分の死と死からの復活について特に伝えようとしておられました。事実、イエスがメシアであることの意味をこのように伝えることは非常に重要でしたので、共に旅をしている者たち以外の様々な要求に邪魔されることをイエスは望まれませんでした。今日でも、一部の神学者や牧師たちは、イエスがどのような方で、なぜ来られたのかについて、異なる様々な点に注目します。イエスは私たちの模範です。私たちにどのように生きるのか、自己を犠牲にしてどのように死ぬのかを示してくださいました。あるいはまた、イエスの奇跡と、イエスを通して私たちも神の奇跡的な力を得ることができるといふことに注目するかもしれません。ですが、イエスは一つのことをはっきりとさせることを望まれました。罪と死が打ち破られたことを示すため、ご自分が世の罪のために死に、死んだ者をよみがえらせるために来られたということです。弟子たちはこれを理解していたでしょうか。いいえ、むしろ、私たちの罪を取り除くため十字架で死なれたメシアとしてのイエスの本当の使命についてより深く知ろうとするのではなく、別の話題に注目していたことが、その続きを読むと分かります。

33 節から見てください。「3 一行はカペナウムに着いた。イエスは家に入ってから、弟子たちにお尋ねになった。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」34 彼らは黙っていた。来る途中、だれが一番偉いか論じ合っていたからである。35 イエスは腰を下ろすと、十二人を呼んで言われた。「だれでも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後になり、皆に仕える者になりなさい。」」イエスの謙遜と、弟子たちの承認欲求との何と対照的なことでしょうか。この違いこそ、この個所とそれに続く出来事と教えを本当に理解する鍵なのです。ご自分の死に関する 3 つの予言のすべてにおいて、イエスは拒絶され、苦しみ、死ぬことの必要性に焦点を当てておられます。言い換えれば、イエスのメシアとしての人生の目的は、神の栄光と人類の救いのためにご自分の命そのものを捧げることでありました。一方、弟子たちが求めていたものは、人として可能な限り人生を全うし、グループの中で最も偉大な存在という名声や人間的地位を得ることとし

た。イエスは偉大さを求めることが間違えだとか悪いとか言っておられるわけではありません。これは興味深いことです。単に偉大であることを求めるなどというのではなく、どのように偉大さを求めるべきかという定義を変えられたのです。往々にして、私たちはこの違いを、私たちは自分の義や喜びよりも義務としてとらえています。ですが、イエスはキリストに従う生き方をそのようなものとして示されてはおられません。イエスはイエスに従う人生を喜びを求める人生として示されます。ですが、それは私たちを取り巻く世界の人々とは違った方法で、違った優先順位を持って成功を求めます。イエスは、神の国において、またキリストに従う者として、真の偉大さとは何かを示されましたが、それだけで教えを終えられませんでした。36節で、その謙遜がどのようなものか、生きた模範を示されました。「36 それから、イエスは一人の子どもの手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱いて彼らに言われた。37 「だれでも、このような子どもたちの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。また、だれでもわたしを受け入れる人は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を受け入れるのです。」」仕えるリーダーという考え方を示すために、イエスは子どもの存在を用いられました。イエスは子どもが謙遜の模範だとは言っておられません。マタイの福音書18章で子どもが登場する別のイベント、あるいは同じ出来事を別の視点でとらえたのかも知れませんが、それを読むと、イエスが子どもを用いて謙遜を説明されているように見えるかもしれませんが、そうではありません。今と違い、子どもたちは面白くて、かわいい、高潔な存在として見られていたわけではありません。子どもを中心として家庭生活が回っていたわけでもありません。実際、子どもたちが家庭や社会での労働に貢献できるようになるまで、取るに足らない存在でした。35節で「皆の後」と言われたのがまさにそれを示す者です。社会における自分の位置について議論するのではなく、その社会や世界の中、最も小さい人たちに仕えることを厭わない人になるまでは、イエスがおっしゃった真の偉大さにつながる謙遜ということを理解することはできないでしょう。つまり、子どものようになれ、というのではなく、子どもや最も小さいものを受け入れるイエスのようになれということなのです。さて、これは実生活とは何の関係もない、単なる謙遜に関する教えなのでしょうか。いいえ、私たちのほとんどは、ある意味リーダー的な立場にあります。皆さんの中には長老や執事といった、教会でのリーダー的な立場にある人たちがいます。仕事や雇用主の目的を果たすために、他の人を監督するような、仕事面でリーダーの方々もいるでしょう。キリストに従う者として、リーダーとしての成功への道は、自分が率いる人々に仕えることです。つまり、私たちのリーダーシップとは、一般的にCEOと呼ばれる人たちや会社での昇進の階段を登っている人々に見られるものとは、かなり違ったものである可能性が高いということです。ですが、これから更にお話しするキリストに従う者としての私たちのアイデンティティは、この建物を出るときに終わってしまうようなものではありません。この同じ謙遜差を、私たちは職場や家庭に持ち帰り、自分よりも立場が下の人たちに仕えることでリードしていくのです。私がかつて共に仕事をする機会に恵まれたとても有能なリーダーの中には、この原則を理解している人たちがいました。上司が自分たちのこと、自分たちの必要を気にかけてくれていることが分かっていたから、そのリーダーシップのもと、使命と目的を達成するために懸命に働く気になりました。自分たちは仕事を成し遂げるための単なる手段ではなかったのです。教会においても、後で見ると、イエスは特に兄弟姉妹信者のことを心にとめておられたのですから、私たちは兄弟姉妹をミニストリーを成すための道具としてではなく、神の荷姿として謙遜を持って仕え愛することができます。

弟子たちの口から出た次の言葉が、なぜこの概念が重要で、わざわざ示される必要があったのかを証明しています。誰が一番偉いかという議論だけでは十分でないとしたら、38節で彼らのプライドが別の形で示されているのを見てください。「38 ヨハネがイエスに言った。「先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」39 しかし、イエスは言われた。「やめさせてはいけません。わたしの名を唱えて力あるわざを行い、そのすぐ後に、わたしを悪く言える人はいません。40 わたしたちに反対しない人は、わたしたちの味方です。41 まことに、あなたがたに言います。あなたがたがキリストに属する者だということで、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる人

は、決して報いを失うことはありません。」彼らの弟子としての召命が人としての偉大さを求めるものではなかったように、キリストに対して排他的な権利を得るものでもありませんでした。「やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかったからです。」ヨハネの言葉に注目してください。「やめさせようとしたのは、彼がイエスというお名前を悪用したり、パリサイ派の人々のように神の御業をサタンに帰していたからではなく、彼が私たちの仲間ではなかったからです。」全ては弟子たちの問題で、彼らがイエスとの関係をどのように見ていたかということでした。彼らの頭の中では、誰がイエスに従う者になることを許されるかを決めるのは彼らでした。このことは、彼らのプライドと自己を重要視する姿勢のもう一つの例に過ぎません。もちろんイエスはそれに対して、誰もイエスを独占する権利など持っていないのだから、イエスの名によってわざを行うことを止めないと言われました。もし皆さんがキリストに従う者であるなら、ここで弟子たちに語られたことは、キリストに物理的に近づくことではなく、もっと重要なことで、見逃しがちなことです。

この個所は、イエスはご自分のことをキリストという言葉で呼ばれた数少ない機会の一つです。これはメシアを意味する言葉ですが、イエスがご自分をこう呼ばれるのは普通ではありません。キリストに属するという重要な関係性からくる働きは、神から報いを受ける働きであると彼らに語っておられるのです。このことは、イエスが偉大さについての世間の考えを覆した、真の偉大さについて語られたことに通じます。世間では、自分の名を上げるために何をするかが、その人を偉大にします。しかしイエスは、私たちの名前ではなく、私たちが仕え従う方でおられるイエスの名において成される最も謙虚な行為が永遠の報いを持って報われうると言われます。そしてそれらはキリストの名のもと行われる、世界を揺るがすような大それた行為ではありません。キリストの愛を示すため、喉が渇いている人にコップ一杯の水を与えるといったことです。ですから、私たちがキリストに在るからこそ成すことは、神が見向きもせず報いもしないということがありません。このイエス・キリストに属するという考え方は、私たちのアイデンティティが「キリストに在る」という考え方と同じです。それはローマ人への手紙 8:1 が「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」と言っていることです。そして、私たちのアイデンティティがキリストの内にあることの結果としての行動は、私たちに最高の喜びと満足をもたらすものです。それこそが私たちが最も求めるべきものです。繰り返しとなりますが、それは私たちがストイックに義務として行うことではありません。それは実は、私たち自身の得られる最高の報いを求めることであり、私たちの周りの世が満足や報いや人生の喜びをどこに見出すのかとは大きく異なります。それはジョン・パイパーが彼の著書「Desiring God」の中でクリスチャン快樂主義と表現しているもので、「神は私たちが神の内において最も満たされているときに、私たちの内で最も栄光を受けられる」という考え方に集約されています。つまり、私たちは神に栄光を帰すことによって人生における最大の喜びを見いだすのであり、喜びを求めるということは神の栄光を求めるとのことなのです。ですから、神への義務を果たすということは、実際にはこの世と永遠において最高の喜びと最高の満足を追求することだと考えるべきなのです。それは私たちが自分を高める内に見出せるのではなく、キリストに従う者として、人々が私たち自身ではなく、私たちの主を見上げるように指し示す者として、自分を低くすることの内に見出されるものです。

キリストに従う者として謙虚に働くという考え方は、単に良い考えということではなく、プライドゆえにイエスの言葉をないがしろにする者たちに深刻な結果をもたらします。マルコの福音書 9 章の最後、42-50 節を見てみましょう。「42 また、わたしを信じるこの小さい者たちの一人をつまずかせる者は、むしろ、大きな石臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれてしまうほうがよいのです。43 もし、あなたの手があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。45 もし、あなたの足があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片足でいのちに入るほうがよいのです。47 もし、あなたの目があなたをつまずかせるなら、それをえぐり出しなさい。両目がそろっていてゲヘナ

に投げ込まれるより、片目で神の国に入るほうがよいのです。48 ゲヘナでは、彼らを食らううじ虫が尽きることがなく、火も消えることはありません。49 人はみな、火によって塩気をつけられます。50 塩は良いものです。しかし、塩に塩気がなくなったら、あなたがたは何によってそれに味をつけるのでしょうか。あなたがたは自分自身のうちに塩気を保ち、互いに平和に過ごしなさい。」」他者に理不尽な接し方をするにつながるプライドの問題を、神の目に重大な罪として見なさないことは、特に教会内において、永遠の影響をもたらす可能性があります。さて、クリスチャンであるあなたが、誰かに対する愛がないゆえにその人を傷つけることにつながるプライドの罪ゆえに、自分の救いを失い、地獄に落とされることがあるのでしょうか。ここで言っていることはそのようなことではないと思います。ですが、私たちの他者への接し方について、特にこの個所では私たちが何らかの影響力や権威を持っている他者への接し方について、私たちの心を吟味するようという警告であります。イエスは、手や足や目といった私たちの人生において最も重要な部分よりも、神との関係や、他者への謙虚な接し方の中で神に栄光を帰すことの方が重要であるということを確認しておられます。私たちの体のこれら3つの部分は、罪深さにつながり得る私たちの目に見える行いのほとんどすべてが含まれます。目は私たちが見るものを、手は私たちがすることを、そして足は私たちが行く場所を含みます。もし私たちがそれらすべてにおいて、私たちの内で最も小さく弱い兄弟姉妹への愛を示す、キリストのような謙虚な働きをできなければ、兄弟姉妹がキリストに従うことにおいてより忠実であるよう影響を与えるのではなく、むしろ罪を犯させることにつながるかもしれません。

神に栄光を帰するよう他者に影響を与える能力こそが、私たちが他者とどう接するかの中心であります。クリスチャンは塩のようなものでなくてはなりません。ここでは完全に明確ではないものの、火は清める力、塩は保存する力とつながりがあります。クリスチャンはこの世において保存料あるいは調味料のような役割を果たします。私たちを駆り立てるものにおいて、キリストに従うことで神に栄光を帰すように他者に影響を与えることができるよう、自分の周りの世界とは異なる生き方をすべきです。もしそうしないなら、キリストのような謙虚さを持って他者に接しないなら、私たちは自分の行動によって、その人が地獄の裁きに直面する神の怒りにさらされても構わないと言っているのと同じです。また地獄を現実のものとは考えていない、あるいは大したものではないと思っていることを示しているようなものです。ですが、私たちが接するキリストを知らないすべての人が死にゆく存在であり、「うじ虫が尽きることなく、火もきえることが」ない場所に向かっている。そのことが、私たちの内に救い主イエス・キリストの謙虚さを見ることができると、私たちの他者に対するすべての言動を吟味させるはずで、そして、教会内でのたとえ最も小さな「わたしを信じるこの小さい者たち」に対しての行動でさえ、キリストに在るすべての兄弟姉妹に対してどのように仕えるのかによって、互いに励ましあい、キリストに似た者となるよう互いを築き上げるものであるべきです。それは、罪深い怒りや分裂を引き起こすような言葉や行いではなく、謙遜と愛を示す言葉や行いを用いることを意味します。ですが、それはまた、私たちが愛を持って謙虚に在りつつ、人々が罪を離れキリストに向かうのを助けるということでもあります。それは、私たちが「だれでも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後にになり、皆に仕える者になりなさい」というイエスの言葉を信じ、それに従うからです。YIBCが他者に仕えることによってイエスに従うしもべらの教会でありますように。祈ります。

Mark 9:30-50 The humility of a follower of Christ

Today we are finishing Mark chapter 9 by looking at verses 30-50. At first glance, these are sort of disconnected events and teachings. But remember, under the inspiration of the Holy Spirit who spoke this Word through human writers, nothing is accidental in what we read. And here, there seem to be clear connections going back to the event that started this whole chapter – the transfiguration. In the transfiguration, Peter, James and John got a glimpse of God’s glory, and that taste of God’s glory should change everything about the focus of their lives, and it does, eventually. But there is still much growth to happen in the lives of these disciples, these followers of Christ, before Christ departs the earth. And today, we are in need of growth, and although we should seek God’s glory as modern day followers of Christ, too many times like these first disciples, our self-centeredness and pride leads us to glory in our ourselves and our accomplishments rather than our God. So, like the disciples, **we too must be confronted with our need for humility as a follower of Christ.**

Let’s begin by looking at the very first phrase of these 20 verses in Mark 9:30. ³⁰ **They went on from there and passed through Galilee.** Now, most of Jesus’s life and ministry up to this point has happened in the region of Galilee. **You can see the area on the map near the Sea of Galilee.** The events we have read about in Mark have primarily happened in this Northern region away from Jerusalem that includes Capernaum that will be mentioned in a couple verses. But after this, there is no more mention of Galilee until the resurrection happens. After Peter’s declaration of Jesus being the Christ and then the events of the transfiguration, everything in the book of Mark is continuing to move towards Jerusalem and the crucifixion. So let’s continue reading and see the discussion taking place as they traveled. ³⁰ **They went on from there and passed through Galilee. And he did not want anyone to know, for he was teaching his disciples, saying to them, “The Son of Man is going to be delivered into the hands of men, and they will kill him. And when he is killed, after three days he will rise.”** ³² **But they did not understand the saying, and were afraid to ask him.** So, Jesus is using this time on this journey to once again tell the disciples explicitly about his coming death and resurrection from the dead. In fact, it was so important to convey this version of what it meant that he was the Messiah that he did not want to be interrupted by any other requests from those outside of their group as they were traveling. Even today, some theologians and Pastors will focus on different aspects of who Jesus is and why he came. He is our example…he showed us how to live, and self sacrificially how to die. Perhaps they will focus on his miracles and how through Jesus, we too can obtain access to God’s miraculous power. But Jesus wanted one thing to be clear. He came to die for the sins of the world and rise again the dead to show that sin and death were defeated. Did the disciples understand this? No, in fact, as we continue we will see that instead of using the opportunity to try to understand more about Jesus’s true mission as the Messiah in dying on the cross in order to take away our sins, they had a different focus of conversation.

Look at verse 33. ³³ **And they came to Capernaum. And when he was in the house he asked them, “What were you discussing on the way?”** ³⁴ **But they kept silent, for on the way they had argued with one another about who was the greatest.** ³⁵ **And he sat down and called the twelve. And he said to them, “If anyone would be first, he must be last of all and servant of all.”** **What a contrast between Jesus’s humility and the disciples desire for recognition!** This contrast is the key to this passage and really understanding

the events and teaching that follow. In all three predictions of his death, Jesus focuses on the necessity of being rejected, suffering and dying. In other words, his life's purpose as the Messiah was on surrendering his very life for the glory of God and the salvation of mankind. The disciples on the other hand were focused on fulfilling their lives in the most human way possible, looking for prestige and human status as the greatest among their group. Jesus is not saying it is wrong or bad to seek greatness. This is interesting. He is changing the definition of how you seek greatness, rather than simply saying don't seek greatness. Too many times we see this contrast in a sense of our duty rather than our good and even our joy. But Jesus doesn't present the life of following Christ in that way. Jesus presents the life of following Jesus as a life that is seeking joy, that is seeking success but in a way that is different and with priorities that are reordered from the lives of people in the world around us.

Jesus confronting them on what true greatness in the kingdom of God and as a follower of Christ doesn't end with his teaching. **He gives them a living example of what this humility looks like in verse 36.** ³⁶ **And he took a child and put him in the midst of them, and taking him in his arms, he said to them, "Whoever receives one such child in my name receives me, and whoever receives me, receives not me but him who sent me."** Jesus sees the presence of a child as an opportunity for application of this idea of servant leadership. Notice that Jesus is not saying the child is an example of humility. When you read of another event with a child or possibly the same event through different eyes in Matthew 18, you might see Jesus as using the child to describe our humility, but that is not it. Unlike today, children were not looked on as cute, virtuous kids who are funny and interesting. Home life did not revolve around kids. In fact, until children were old enough to contribute towards the labor of their families and societies, they were fairly insignificant – a perfect example of who Jesus means when he talks about the "last" in verse 35. Until you are willing to be the type of person willing to not argue about your place in society, but serve the smallest member of that society, the least in our world, then you will never understand that type of humility that Jesus says leads to true greatness. So, the point is not, be like a child, but be like Jesus who embraces the child, the least. Now is this just a nice teaching on humility that has no bearing on real life? No, in some way most of us at some point are in a position of leadership. Some of you have leadership positions in the church like our Elders and Deacons. Some of you are leaders in your jobs, where you supervise others to accomplish the goal of your work or your employer. As a follower of Christ, the way to success as a leader is by serving those you lead. That means that our leadership is likely much different than what is typically seen in most CEO type of people, and those who climbing the corporate ladder, so to speak. But our identity as a follower of Christ which we will talk more about in a minute does not end when we walk out of this building. We take that same humility into the workplace and the home to lead by serving those who are below us in position. Some of the most effective leaders I have ever had the privilege to work for understood this principle. Those of us under their leadership were motivated to work harder to accomplish the mission and purpose because we knew that our boss, our supervisor, cared about us and our needs. We were not just a means of getting the job done. Even in church...since we will see later, Jesus has specifically brother and sister believers in mind... we can begin to treat people as tools to accomplish ministry rather than image bearers of God who we need to serve and love with humility.

The very next words out of the disciples mouths prove why this concept is important, and needed to be addressed. If arguing about who was greatest was not enough, look at their pride take another form in verse 38. ³⁸ John said to him, “Teacher, we saw someone casting out demons in your name,^[f] and we tried to stop him, because he was not following us.” ³⁹ But Jesus said, “Do not stop him, for no one who does a mighty work in my name will be able soon afterward to speak evil of me. ⁴⁰ For the one who is not against us is for us. ⁴¹ For truly, I say to you, whoever gives you a cup of water to drink because you belong to Christ will by no means lose his reward. Just as their call to discipleship was not to human greatness, **it was also not to exclusive entitlement to Christ.** Notice what John says, how he words it... “we tried to stop him, because he was not following US.” “We were not trying to stop him because he was misusing your name, Jesus, or attributing works of God to Satan like the Pharisees, but he was not one of US.” This was all about the disciples and how they viewed their relationship to Jesus. In their minds, they got to determine who was allowed to be his follower. This is just one more example of their pride and inflated sense of self-importance. Jesus in his response of course tells them to not stop him from serving in Jesus’s name, because no one has exclusive rights to Jesus. If you are following Christ, it is not about physical proximity to him, but something far more important that he points out to his disciples here but is easy to miss.

This is one of the rare times that Jesus refers to himself by the term Christ. This is the term for Messiah, but it is not normal for him to call himself by that term. He tells them that the service that comes from their primary relationship of belonging to Christ, is service that gets rewarded by God. This goes back to what Jesus has said about true greatness as He again flips the world’s idea of greatness on its head. To the world, what you do to make a name for yourself is what makes you great. But Jesus says, the most humble of acts done not in our names, but in the name of the one we serve and follow, Jesus, those acts are rewarded with eternal rewards. And these are not huge and world shaking acts that are done in Christ’s name. This is giving a cup of water to a thirsty person because you are showing Christ’s love. So, any act we do because we belong to Christ does not go unseen or unrewarded by God. This idea of belonging to Jesus Christ is the the same idea of our identity being “in Christ.” It’s what [Romans 8:1](#) tells us, [There is therefore now no condemnation for those who are in Christ Jesus](#). And those actions that result from our identity being found in Christ are ones that bring us the most joy, the most satisfaction. These are the ones we should seek the most. Again, it is not a stoic duty that we perform. It is actually seeking our own highest reward, but it is very different than where the world around us would center finding that satisfaction, that reward, and that joy in life. [It is what John Piper has described in his book “Desiring God” as Christian hedonism, which is summarized in the simple idea that “God is most glorified in us when we are most satisfied in him.”](#) What that means is that we find our greatest joy in life by bringing glory to God, so seeking our joy means to seek God’s glory. So to do our duty to God should actually be thought of as pursuing our greatest joy and our greatest contentment in this life and and in eternity. This is not found in the exalting of ourselves, but in humbling ourselves as a follower of Christ who points people to look at our Lord rather than look at us.

This idea of humble service as a follower of Christ is not just a good idea, but has **serious consequences for those who in their pride would neglect Jesus’s words here.** Look at the last set of verses from Mark 9:42-50. ⁴² “Whoever causes one of these little

ones who believe in me to sin,^[g] it would be better for him if a great millstone were hung around his neck and he were thrown into the sea.⁴³ And if your hand causes you to sin, cut it off. It is better for you to enter life crippled than with two hands to go to hell,^[h] to the unquenchable fire. And if your foot causes you to sin, cut it off. It is better for you to enter life lame than with two feet to be thrown into hell.⁴⁷ And if your eye causes you to sin, tear it out. It is better for you to enter the kingdom of God with one eye than with two eyes to be thrown into hell,⁴⁸ 'where their worm does not die and the fire is not quenched.'⁴⁹ For everyone will be salted with fire.^[i] ⁵⁰ Salt is good, but if the salt has lost its saltiness, how will you make it salty again? Have salt in yourselves, and be at peace with one another." Failure to see issues of pride that result in our mistreatment of others, especially within the church, as serious sins in God's eyes can have eternal consequences. Now can you as a Christian lose your salvation and be sent to hell for the sin of pride that would hurt someone else by your lack of love for them? I don't think that is what this is saying. But it is a warning to us to examine our hearts in relation to how we treat others, especially in this context, those we may have some form of influence and authority over. Jesus is making it clear that our relationship with God and glorifying Him in our humble treatment of others, is more important than even those parts of us that are most crucial to our life, like our hands, our feet and our eyes. These three parts of our bodies encompass pretty much all of our outward actions that can be sinful. Our eyes cover what we see; our hands, what we do; and our feet, where we go. If in any of those areas we fail to show humble Christlike service which is love to the least of our brothers and sisters, then we may be causing them to sin rather than influencing them to be more faithful in their following of Christ.

This ability to influence others to glorify God is what is at the heart of how we treat others. Christians are to be like salt. While not entirely clear here, fire and salt are connected by the power they have to purify in the case of fire and preserve in the case of salt. Christians act as form of preservative or even a flavoring in this world. We are to live lives that are different from the world around us in what drives us so that our lives will influence others to glorify God by following Christ. If we don't do this, if we don't treat others with Christlike humility then we are saying by our actions that it is okay with us that that person is under the wrath of God facing the judgment of hell. It shows that we think either hell is not real or not significant. But the fact that everyone we interact with who is without Christ is dying and on their way to the place where the "**worm does not die and the fire is not quenched**..." should cause us to examine all of our words and actions toward others and see if they see in us the humility of our savior Jesus Christ. And our actions within the church to even the least of ... **these little ones who believe in me**... should encourage each other and build each other up in Christlikeness by the way we serve all who are a brother or sister in Christ. This means that we use words and actions that show humility and love rather than those that may provoke sinful anger and division. But it also means that we lovingly and humbly help people move away from their sin and towards Christ. Because we believe and obey Jesus's words, "**If anyone would be first, he must be last of all and servant of all.**" May YIBC be a church of servants who follow Jesus by serving others. Let's pray.